

<私(尾崎)の事例 >

時 間	私の心の中、感じたこと、考えたこと、実際行ったこと、など
試験前	<p>前年不合格になった要因の事例 ということで、試験前の過ごし方を変えました。電話をして平常心を取り戻した後に、試験場に入る前に先生から差し入れとしていただいたチョコレートを口にし、教室外の通路にある窓から外の景色をしばらく眺めました。前年は集中力が切れてしまっていたため、気分転換の方を重視しました。</p> <p>知識面で事前に確認した点は、回収期間法、内部収益率法、正味現在価値法等の、事業投資の意思決定に用いられる手法の計算方法とそれぞれのメリット、デメリットについてでした。</p>
開始～15分	<p>事例 については、事例 ~ のように回答前と回答後の時間配分は明確には決めておらず、まず第1問を回答し、その他は回答しやすそうな順に進めるようにしていました。ただ、近年の事例 は以前と異なり、他の事例同様に答案の一貫性がより求められる出題傾向となっているため、第1問の答えを決め付けて先に進むやり方は合わないと思います。</p> <p>(1) 問題文・設問文を読む 問われている文言・キーワードを囲む。 その他の回答にあたっての諸条件に線を引く。 書き出しの言葉・文章構成のイメージ等をメモする</p> <p>(2) 財務諸表から代表的な指標を計算して問題点の当たりをつける</p> <p>(3) 本文を読む ・設問でのキーワードと同じ単語に気づいたら囲む ・逆説の接続詞を囲む ・その他重要と思われる接続詞を囲む ・読んでいて引っ掛かるフレーズ(改善提案の候補)に波線を引く ・その他問題の答えの拠り所として使いそうな箇所に普通線を引く</p> <p>(4) 再度問題文・設問文を読み本文の対応箇所を大まかに認識する</p> <p>(5) 再度本文を読み、設問分の回答の文章構成の大枠を固めていく</p> <p>細かい思考方法は以下の答案作成のところで述べさせていただきます。過去問題では、財務諸表を計算した段階で概ね第1問の問題点の当たりが付いていたのですが、本年度は貸借対照表において平成18年度実績と平成19年度予想の間にほとんど変化がなく、焦りました。その他では、第4問を見て、また個人情報の設問かと思いました(一つ前の事例 で関連の出題があったばかりでした)。</p>

<p>15分～</p>	<p>【第1問】</p> <p>例年と比べて配点が減っていました。前年度の第1問で失敗した、主語と述語だけは絶対に間違えないようにという意識が強くなりました。</p> <p>AASでは、事例の第1問で「問題点を3つ挙げよ」と問われた場合に、MECEの観点から利益率、回転率、安全性を上げることが推奨されていました。その根拠は、現在の試験制度初年度の平成13年度において、この3つの経営比率から分析しなさいという問われ方をしていたためです。答案の書き方も、以下のような形で締めくくることが良いと習っていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益率：～により収益性が悪化した ・回転率：～により資産効率が悪化した ・安全性：～により安全性が低下した <p>今回は「問題点の原因」が問われているため、答案の書き方としては、例えば利益率であれば「原因は、～により収益性が悪化したため。」という形に決めてしまいました。</p> <p>利益率に関わる損益計算書上の指標は、売上総利益率ないし売上高営業利益率と最初に考えました。売上高が減少する中、従業員数が変わっておらず、固定費で利益が圧迫されているという原因をまず想定し、人件費が売上原価と販管費にどのような内訳で入っているかがこの財務諸表から確認できないことから、両方が加味された営業利益率の方を問題点として指摘することにしました。</p> <p>残る貸借対照表からの2つの指標が、本文からも全くイメージできませんでした。前年も失敗しているだけに焦りましたが、仕方なく、一旦諦めて次の問題に進むことにしました。</p> <p>【第2問】 (設問1)</p> <p>問題文に、「変動費率は一定と仮定する」という条件がある一方で、固定費については条件の提示がありませんでした。ただ、固定費は変わらないと仮定する場合の計算以外に方法が思い浮かばなかったため、その前提で計算するしかないと思いました。</p> <p>連立方程式を立て、変動比率は0.4968・・・と計算されました。設問文の指示通りに四捨五入を行い、50%と回答しました。</p> <p>残る固定費の計算は、この変動比率を代入して解くだけなのですが、この際に代入す</p>
-------------	--

	<p>る変動比率の数字として0.496800を使うのが普通だろうと思う反面、回答した四捨五入後の0.5を取って使うべきものなのかで一瞬迷いました。ただ、0.5を連立方程式のそれぞれの式に代入した場合に固定費が1,275と1,276という2通りの異なる計算結果となったことから、これでは回答にならないと判断しました。結果、素直に0.496800をそれぞれの式に代入した計算結果の1,285を回答しました。百万円未満を四捨五入という条件の書き方から見ても、0.496800を用いた計算方法で問題ないだろうと思いました。</p> <p>(設問2)</p> <p>答案の書き方としては、最初に問われたとおり「～の状況にある。」という結論を出してしまい、その理由を以降で説明する方法を取りました。</p> <p>設問1の損益分岐点分析により変動費率と固定費を計算させているため、変動費と固定費に触れながら60字を埋めていくことを心掛けました。</p> <p>【第3問】</p> <p>(設問1)</p> <p>「平成19年度期末(1期末)での期待正味現在価値」という設問文を、勝手に「平成19年度期末(1期末)までの期待正味現在価値」と読んでしまっていました。この設問1では1期末までの現在価値を計算させ、次の設問2ではシグマの数値を用いて7期末までの現在価値を製造方法別に計算させた上で記述させるのだろう、という設問間の流れで勝手に見えていました。</p> <p>1期は研究開発投資で、かつ製造方法X・製造方法Yで結果が変わらないことから、-0.4億円を割引計算し、百万円単位に直して回答しました。</p> <p>(設問2)</p> <p>製造方法X・製造方法Y別に期待正味現在価値を計算したところ、製造方法Yは結果がマイナスとなりました。発生確率が1/2と単純化されており、リアルオプション系統の問題として、研究開発投資が終わった時点で意思決定をさせる内容の記述をする設問だと認識しました。</p> <p>答案の書き方としては、問われている通りに研究開発の着手の有無、設備投資について明確に書いていくことにしました。50字という制限字数があったため、NPVという略語を回答に用いました。</p>
--	--

	<p>【第4問】</p> <p>(設問1)</p> <p>答案の書き方としては、「留意する点は、～である。」という形に決めてしまいました。</p> <p>個人情報に関連する情報が本文中には掲載されておらず、自分の知識で回答していく必要がある問題と解釈しました。しかし、個人情報というキーワードから自身が思い付く用語は、「個人情報保護法」と「情報漏えい」程度しかありませんでした。よって、個人情報保護のための方針を立て、それを遵守することで外部に情報が流出するのを防ぐ、という内容以外に書きようがありませんでした。</p> <p>問題文に書かれている「専門業者に委託する予定」という部分を考慮して書く必要があったと思うのですが、回答でそれを明確にできたとは言いきれないと思います。</p> <p>(設問2)</p> <p>答案の書き方としては、「資産の構造は～変化する。費用の構造は～変化する。」という形に決めてしまいました。40字という少ない字数制限で2つの項目を回答させることから、主語は省略しても問題はないはずですが、集中力を欠いていたのかそういう頭は全くなく、それぞれをどのようにして20字以内に収めて書くかということを考えていました。</p> <p>また、新たな販売チャネルとしてインターネットを活用し、プラスの効果を生み出すという全体の流れを勘案し、プラスの方向への変化について回答していく設問と判断しました。</p> <p>資産の構造で頭に浮かんだのは、売上債権と棚卸資産でした。プラス面として、インターネット販売により現金による取引の比率が高まり、売上債権の回転期間が短縮されると考え、そのような趣旨で前段の字数を埋めました。棚卸資産については、現在の製品にインターネット販売における低価格製品が加わるため増加すると考え、マイナス要因になり得ると判断し、ここでは売上債権を挙げることにしました。</p> <p>費用の構造については、第2問で行った損益分岐点分析を念頭に置き、売上高が増加することに伴うプラス要因を挙げることにしました。</p> <p>【再び第1問】</p> <p>回転率、安全性の指標について再度考えましたが、やはりアイデアは浮かびませんでした。貸借対照表で数値が大幅に悪化している項目は見当たらないものの、問題点を挙げる以上は、わずかでも悪化している指標を指摘する以外にないのだろうとまず考えました。</p>
--	--

AAS HPクラス(平成20年度)教材 事例 の部屋「合格者の80分間」

	<p>拠り所となる本文から問題点を探りましたが、基本的には売上高の減少に影響している項目で占められているように見えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早急に基礎化粧品に関する製品開発を進めることが求められる ・新製品開発投資や設備投資の負担は中小企業にとって軽くない ・伝統的な町の薬局が次々と廃業に追い込まれ取扱薬局が減少している <p>取扱薬局の減少に関しては、これに伴って貸倒の増加や在庫の増加が生じているような数値にはなっていないことから、回答として書けそうな指標として、新製品開発投資や設備投資の負担に関連する固定資産関連のもの以外に思い浮かびませんでした。</p> <p>固定資産に関して色々と考えながら財務諸表眺めているうちに、投資を行う際には有利子負債が更に増加する可能性があると考え始めました。その理由は、投資有価証券の現金化が可能かどうかは本文からは不明なため、手元資金だけでは投資額を賄えない可能性があるためです。このようなことを考えている過程で、問題文に書かれている「これまでの経営政策を続けた場合」が平成19年度の数字を示しているにも関わらず、それよりも先の年度の見通しの方に思考が飛んでいました。題意から思考がずれてきて、かつ残り時間5分のコールを受け、止む無く悪化している指標を無理に挙げて、支離滅裂な文章を埋めて終了となりました。</p>
<p>終了後</p>	<p>答案回収の時点で、第1問の回答がひどい内容であることはよく分かっており、今年もまた第1問でやってしまったなと思いました。3つの切り口にこだわり過ぎて、一貫性が取れない指標を選択してしまいました。回転率が2つになってしまっても、第4問の内容から素直に売上債権回転率を挙げるべきでした。</p> <p>前年は「AAAC」という評価でしたので、今年は事例に加えて事例で不合格評価が予想された分だけ前年から後退し、まず不合格だろうと思いました。その後、第3問の設問1の、期待正味現在価値の問題文の解釈を誤っていたことも分かりました。</p> <p>上記の通り前年よりも低い評価を想定していたことから、合格発表の確認すら行っていませんでした。翌日の夜に外出先から戻ったところ、郵便受けに配達証明の通知が投函されており、この時ようやく口述試験に進んだことを知りました。おそらくですが、事例も事例も前年対比で平均点がかなり下がったのではないかと考えます。</p>
<p>試験エピソード (最後は精神論)</p>	<p>事例のエピソードとして、終了時間を10分勘違いし、残り時間5分で45点分が白紙というとんでもない状況に陥りながらも、受験申込日を最終日にしていたことが幸いして諦めずに済んだことを書かせていただきました。実は、その前年にも今回の一件の伏線となるエピソードがあったのです。試験会場に時計を忘れて行ったのです。</p>

	<p>試験場の入り口で時計を忘れたことに気づき、コンビニエンスストアを3軒回って見たものの置いていませんでした。大学なのだから教室に壁掛け時計くらいあるだろうと思って会場入りすると、壁掛け時計は見当たりません。腕時計を外して机に置く方がいらっしゃるのが試験の常ですので、前の席の2人のいずれかがきつとそうされるはずだと願ったものの、何と前の席の人はこの教室で唯一の欠席者となり、斜め前の人は腕時計を机には置いてくれませんでした。</p> <p>ここまで置み掛けられても、不思議なことに全く焦りはありませんでした。勉強が足りないから来年出直して来いという流れだと苦笑いしつつも、これで不合格になっても確実にネタになるな、この状況で合格でもしたら逆にすごいことになるな、と思えました。不合格でももとの受験、失敗しても来年も2次受験の権利があるという楽な気持ちの方が大きかったのでしょう。3つ前の席の人が外した腕時計のかすかに見える長針と、試験官の残り時間のコールを頼りに取り組んだところ、むしろタイムマネジメントが機能して前倒して回答が進みました。結果的に不合格となりましたが、事例 以外は合格圏内という判定が残り、今のやり方で十分に得点は取れる、次回は時計さえ忘れなければ、今回と同じようにいい精神状態で会場に行ければ、と思えるようになりました。</p> <p>そして話は元に戻りますが、2度目の2次試験は時計を持参したにも関わらず、終了時間を10分間違えて大ピンチに陥ったのです。以下は私の教訓です。</p> <ul style="list-style-type: none">・どのようなハプニングが起きても当日は前向きに解釈する。どのようなこじつけでも構わないのでプラス思考を貫く。・自分の基準で「駄目だ」と勝手解釈して諦めてしまわない(特に事例 終了後)。 <p>最後は精神論に終始する形となり失礼しました。</p>
--	--